

幕末に 世界一周 やってみた

5

万延元年閏三月七日（一八六〇年四月二十六日）
素毛ら遣米使節団一行を十五ヶ月も待っていた
軍艦ローノーク号はアスピノール港を出港した

軍艦ローノーク号
長さ三一七フィート 幅五三フィート
大砲四十八挺 重さ三千四百トン
パナマまで彼らを運んだポーハタン号は
外輪式蒸気船であったが
ローノーク号は当時主流となっていた
スクリューで推進する軍艦であった
ポーハタン号はアメリカ軍艦最後の
外輪式蒸気船となった

構成 川合登志和
漫画 秋桜



※動物はいずれも推測です





着流し〜

…その恰好で行くつもりか？

はい
入浴もできず
着物も汚れたまま…
洗濯がしたいのです

ババーン



← New York Porto Bello

Aspinwall

さてローノーク号に乗り込んだ
わしら使節団一行は一路
ニューヨーク…ではなく
薪水を補給するために
アスピンウォールの東にある
ポートベルロに寄る事に…

何?!
上陸したいだと?!



もちろん
わしも上陸じゃ!

ということで
アメリカ兵士に警固して
もらいながら上陸する
ことになったんじゃ

このあたりは危険だから
せめてズボンと長靴を
履いていきなさい

ツカ

さわ



お任せ
ください!

賄い方!
ウナギを捕ったら
今日の晩飯に
出してくれよ!

ウナギじゃ!
ウナギがおるぞ!

OH!
NOOOO!

ババーン



お?

仕方ない!
海で身体を洗おう

ぬぎ



ところが…

泉の水は飲み水だから
洗濯は禁止
近くにあった水たまりは
悪臭がひどくて洗濯ができる
ものではなかった

や



このあたりの海は
サメやワニもいるんだぞ!

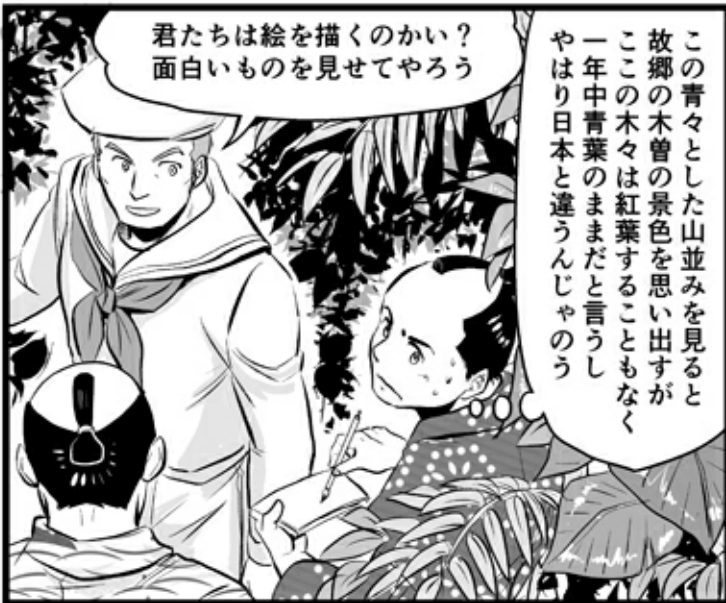
それは
ウミヘビだ!

ギャあああああ



何をしているんだ!
早く海から上がれ!

ダーン



君たちは絵を描くのかい?
面白いものを見せてやろう

この青々とした山並みを見ると
故郷の木曾の景色を思い出すが
ここの木々は紅葉することもなく
一年中青葉のままだと言うし
やはり日本と違うんじゃないのう



も……
猛獣?!

水番小屋からあまり
離れないように
このあたりは猛獣が
うじゃうじゃいるぞ



これは
珍妙じゃ!

こいつは
"角のあるカエル"と
呼ばれている

※ツノトカゲだったと
思われる



こいつは鳥みたいに
枝を飛び回るんだ

な……なんじゃ!
この生き物は?!

※バシリスクカイクアナ
だったと思われる



※アルマジロと思われる(素毛のスケッチにはありません)





ズル
ザ
ザ

足に重りを付けて
海中に葬るのか…
我々日本人の中にも
病になった者がおる
このことは伏せて
おこう



それは
日本では見慣れない光景だった

アメリカ人は貴賤関係なく
全ての者が涙を流し悲しみに暮れた



村垣様…

身分の高い者まで
参列とは
分別がないのでは
ありませんか？

それは違う
アメリカはまごころで
治められている国だから
こういうことは
当たり前なのだろう…

遣米使節副使
村垣淡路守範正



複雑な思いを胸に
素毛たち使節団一行を乗せた
ロケット号は
キュルパ島の岬を望みながら
アタラの海を進んでいく

とうとう
島山を照らして見せよ春の月



亡くなった水夫の持ち物を
競りにかけとるようだろうか？

ああして得た金を
遺族の元へ送るんじやと



……

旅は楽しい事ばかりではない
時には過酷な目に遭い
命を落とすこともあるんじやな…

第6話へ
つづく



ローノーク号の司令官であった
ウイリアム・マクルーニー提督は
なんとペリーの二度目の来訪時に
旗艦であったポーハタン号の艦長
だったんじゃと！
日本ではファーストネームを
もじって「瓜山さん」と呼ばれて
いたそうじゃ。



ローノーク号の艦長室には
ペリーの書いた本「日本紀行」が
あったそうじゃ
勘定方の森田様がそれを見て
日本の公衆浴場で男女が混浴
している絵が描かれていて
びっくりしたそうじゃよ



えっ！
ニューヨークで降りると思って
荷物をまとめてしまったぞ！
ということぞ
到着まで着の身着のままの一行！

使節団一行はいよいよ
ニューヨークへ到着…ではなく
そのままワシントンへ



こ…これは
腰を抜かしそうじゃ！

ワシントンの都会っぷりに一行は
驚きの連続！
使節団歓迎パレードが行われるのだが
その規模の大きさといたら…